

本時の主張

本時は、これからの自動づくりには、どのようなことが求められているのかを考える授業である。児童は、前時までに自動車の生産方法と自動車づくりの工程における工夫や努力、関連工場との関係、自動車の運搬・輸送、自動車を輸送する交通網について学習してきた。しかし、安全性に配慮した自動車や福祉車両、ハイブリッド車などについて、生活経験やメディア等からの情報で、知識としてある程度知ってはいるが、消費者のニーズを反映した安全で人にやさしい自動車や環境にやさしい自動車づくりが求められていることについてはとらえていない。そのような児童に、これからの自動車づくりに求められている安全で人や環境にやさしい自動車の必要性をとらえさせたい。そこで、本時では、主に以下の4つの手立てを講じる。

- ① 新聞記事の見出しの「〇〇車」販売禁止の「〇〇」に入る言葉を予想させ、これからの自動車づくりに関して、興味・関心をもたせる。(資料1 新潟日報 2017年7月27日の記事を授業者が一部加工) また、「日本の自動車のイギリスへの輸出台数の変化(資料2 日本自動車工業会の調査をもとに授業者が作成)」の推移を表したグラフを提示し、イギリスでの取組と日本の自動車づくりの関連をとらえさせる。
- ② 自動車購入時の重視度にかかわる調査結果(資料3 日本自動車工業会の調査をもとに授業者が作成。2015年度調査。2016年発表)を提示し、消費者のニーズが「環境への配慮」以外にもあることを基に学習課題を設定する。
- ③ これからの自動車づくりに大切にされていることについて、児童に予想させた後、教科書や資料集から調べさせ、出された考えを分類・整理し、「だれでも使いやすい(人にやさしい)」「安全・安心」「快適に運転できる」「環境にやさしい」などの視点でとらえさせる。
- ④ 個別に配慮が必要な児童に、机間巡視でその児童に応じた指導をする。
この手立てにより、児童はこれからの自動車づくりに求められていることについてとらえることができる。と考える。

1 単元名 「工業生産を支える人々 ～自動車づくりにはげむ人々～」

2 単元の目標

- (1) 自動車産業に関わる人々の仕事の様子について、グラフや写真、図書資料など各種資料を活用して調べ、自動車づくりに携わる人々や自動車の運搬・輸送に携わる人々の工夫や努力、工業生産を支える運輸の働きが分かる。
- (2) 自動車に乗る人たちの願いについて調べ、それに応えるために利便性や安全性、環境に配慮した自動車づくりが進められていることを理解し、これからの自動車づくりに求められていることを考える。

3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
・自動車生産の仕事やそれに携わる人々の工夫や努力について関心をもち、意欲的に調べたり、これからの自動車づくりに関して、意欲的に考えたりしようとしている。	・自動車生産に関わる仕事の様々な工夫や努力について、資料や調べたことを基に考え、適切に表現している。 ・これからの自動車づくりに関して、自動車に乗る立場(消費者)、自動車をつくる立場(開発者・生産者)の両面から考え、適切に表現している。	・グラフや写真、各種資料を活用して、日本の自動車生産の現状や課題について、読み取ったりまとめたりしている。 ・図書資料や地図、自動車会社のウェブサイト、パンフレットなど各種資料を活用して、自動車生産の様子や工場の立地、運輸の働きなどについて、読み取ったりまとめたりしている。	・自動車の生産や運搬・輸送における工夫や努力に気づき、生産の主な工程や、自動車工場と関連工場との結びつき、交通網の広がりについて理解している。 ・自動車は消費者の要望に基づいて生産されていることや地球環境に配慮した自動車づくりの重要性を理解している。

4 単元と指導の構想

(1) 単元と児童

① 単元について

本単元は、『小学校学習指導要領解説・社会編』P 6 2・P 6 3 第5学年の内容(3)のア・ウを受けて設定した。

内容(3) 我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること

ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き

本小単元「自動車づくりにはげむ人々」は、大単元「工業生産を支える人々」の中にある3つの小単元の1つである。3つの小単元とは、第1小単元「自動車づくりにはげむ人々」、第2小単元「世界とつながる日本の工業」、第3小単元「工業の今と未来」である。大単元としては、次のような構成となっている。第1小単元「自動車づくりにはげむ人々」では、日本の代表的な基幹産業である自動車生産を教材として、工業生産の様子や働く人々の工夫や努力、自動車工場と関連工場との関連、輸送の役割などについて学習していく。第2小単元「世界とつながる日本の工業」では、自動車の輸出という、第1小単元の学習内容とつながる事例を扱う。それを基に、工業生産における貿易や海外生産の働きについて学習する。第3小単元「工業の今と未来」では、第2小単元までの学習を踏まえながら、日本の工業生産の特色や今後のあり方について学習する。

『小学校学習指導要領解説・社会編』P 6 4・P 6 5「内容の取扱い」では、「ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」について、「金属工業、機械工業、石油化学工業、食料品工業などの中から一つを取り上げるものとする。」とある。本小単元では、教科書で扱われ、関連工場の広がりも大きい自動車生産を事例として取り上げる。自動車・機械類を生産する機械工業は、貿易や海外生産とも密接に関わり、工業生産額で最も大きな割合を占めていることから、第2・3小単元につながる内容としてふさわしい事例であると考えられる。

自動車会社は、消費者の多様なニーズに合わせて、様々な種類の自動車を生産している。そして、効率よく生産するために、流れ作業やロボット・機械の使用、関連工場との協力など、様々な工夫や努力をしている。さらに、安全で人や環境にやさしい自動車など、消費者のニーズだけでなく、社会の多様なニーズにも応える車づくりの研究開発が行われてきている。現在では、研究開発された技術が実際に実用化されてきているものも少なくない。このように、自動車生産を事例として取り上げることが、日本の工業生産の特色を理解させていく上で効果的であるとともに、工業生産に携わる人々の工夫や努力、生産と運輸の働きを一連の流れの中で学習すること、これからの工業生産のあり方を考えていく上で価値あるものであると考えられる。

② 児童について

児童は、前単元「食料生産を支える人々」の学習で農業・水産業・日本の食料生産の学習をしてきている。ここでは、食料生産に従事する人々の工夫や努力、日本の食料生産を取り巻く現状や課題について調べ、学習を進めてきた。そして、日本の食料生産にかかわる現状や課題に対して、自分はどう考えるかという学習を経験してきている。

本単元では、工業生産の中でも自動車生産を事例として扱うが、前単元までの学習経験が生かされると考える。なぜなら、食料生産に従事する人々の工夫や努力について学習した視点が、工業生産に従事する人々の工夫や努力について調べ考える際に生かされるからである。例えば、生産効率や働きやすさの追求、よりよいものを生産し届けるための工夫や努力、そして生産に従事する人々の願い、消費者のニーズなどである。これらは、食料生産と共通する視点であるため、児童にこれまでの学習経験を生かして工業生産について学習を進めていけるようにさせたい。

当学級の児童のほとんどの家庭に自動車があり、全ての児童が自動車に乗ったことがある。自動車には乗せてもらうものという意識で、当たり前のように乗っている状況であり、自動車をつくっている人々のことを意識したり、どのようにして生産されているかということを考えたりしたことのある児童はほとんどいない。一部の自動車に関心のある児童もスタイルや外国産の自動車のブランドに興味がある程度である。児童にとっては、幼少期から家庭に自動車がある生活が当たり前で、「生産」や「自動車の輸送」という視点で見ようとした経験はほとんどないと考えられる。しかし、どんな部品があるか、どうやって運転をするのか、どんな装備が付いているのかなど、視点を絞って聞いていくと自動車に乗った経験から様々な情報を引き出すことができる。自動車に乗ったことがあるという共通の経験と自動車生産、自動車づくりに関わる人々の工夫や努力、自動車に乗る人の多様なニーズ、これからの自動車づくりのあり方などを関連付けて考えさせる働き掛けや学習活動を行い、単なる「乗り物」としての自動車ではなく、「自動車を運転する人や利用する人の暮らしや心を豊かにするもの」として自動車をとらえていけるようにしていきたい。

これまでの授業において児童の興味・関心を高める資料提示を行い、児童の認識のずれを生み出し、

学習課題を設定することを心掛けてきた。児童は、資料を基に問題を見い出したり、複数の資料を関連付けて考えたりすることが少しずつできるようになってきている。しかし、既存の知識や生活経験の差があるため、学習内容によっては一部の児童が主導の学習になりやすい面があった。既存の知識や生活経験の違いがそのまま考えの違いになるような学習ではなく、教科書や資料集で調べた事実、提示した資料、それまでの学習で出てきた考え、分かったことなどを根拠にして、新たな考えをつくっていきけるよう授業を行っていきたい。また、児童は視覚的な資料を提示すると興味・関心を示し、読み取りを始めたり、考え始めたりする子が多い。しかし、単に視覚的な資料を提示しただけでは学習に集中することができなかつたり、やや難易度の高い課題になると、考えを書けずにあきらめてしまつたりする児童が 名いる。個別に配慮が必要な児童も含め、全員が授業に参加できるように、児童同士が交流する場を設定するとともに、児童の思考を深める資料提示をしていきたい。また、机間巡視で個に応じた働き掛けを行い指導していきたい。

(2) 指導の構想

① 既存の知識や生活経験とのずれを生む資料を提示する。

児童のほとんどの家庭に自動車があり、日々の生活の中で当たり前のように乗っている自動車は、児童にとって身近なものである。それだけに、普段深く考えることがないとも言える。そのような状況の児童に、これまで学習してきたことや知識、生活経験とのずれを生む資料を提示する。これは、児童に問題意識もたせるための手立てである。そのことで生じる「なぜ〇〇なのか?」「〇〇なのに、なぜ△△なのだろう?」などの問題意識をかかわらせ、学習課題を設定していく。その際、資料からどんなことを読み取り、既存の知識等とどのように異なっているのか、問い返しの発問をし、そのずれを明確にしていく。これにより、個々の問題意識を学級全体で共有化していくことにつながると考える。本単元では、例えば次のような資料提示である。

- ・自動車の部品数と自動車の組み立てにかかる時間・1台を生産するのにかかる時間を表す資料。
- ・災害等による関連工場の生産休止が全自動車会社の生産休止につながったことを示す資料（新聞記事）。※中越沖地震により被災した柏崎のR社の例（新潟日報 2007年7月20日の記事）。
- ・自動車輸送船に積み込む自動車の台数と積み込む自動車の停車間隔を表す資料。
- ・海外でのガソリン車販売禁止、EV車などの開発を促すことを示す資料。
- ・現在行われている自動車づくりの研究開発の例を示す資料。 など

② 自分の生活とのかかわりを考えさせる。

社会科の学習において、学習したことをそのまま終わらせるのではなく、実生活とのかかわりを考えたり、意識したりすることが重要である。現実に行われている問題や事例、実際に行われている取組を扱い、調べたり考えたりさせることで、学習内容の理解がより深まると考える。自動車の事例を扱う本単元では、この視点が特に重要であると考えられる。なぜなら、「ほとんどの児童がそう遠くない将来、早ければ7～8年後には自動車運転免許を取得し運転をする。」「小学生の現在でも自動車に乗る機会が多い。」「社会では、自動車による事故、自動車の運転ミスによる事故のニュースが報道され、自動車の安全にかかわる技術開発・実用化が必要とされている。」などの理由からである。

自分の生活を学習内容とのかかわりから見直し、振り返るとともに「自動車」について新たな見方や・考え方をさせることも重要である。本単元では、例えば、以下のような例を扱い、調べたり考えたりさせる。

- ・自動車工場（地域環境を含む）や働く人々に配慮した取組。
 - ・自動車の安全性にかかわる問題。
 - ・自動車に乗る人々のニーズを反映した自動車づく、研究開発。
 - ・だれでも使いやすい自動車づくり。
 - ・環境に配慮した自動車づくり、研究開発。
 - ・社会（世界）の要請に応えるこれからの自動車づくり。
 - ・自動車の不正検査問題。 など
- これらの話題を扱う際に、最新の情報を確認するために新聞記事等も活用する。

③ ペアやグループで考えを交流したり、考えを広げたり深めたりする場を設定し、児童から出された考えを意図的に分類・整理する。

小集団での考えの交流で、児童相互のかかわり合いを重視した学習活動を展開する。個々に調べた内容を基に小集団で交流することで、分からないことや考えを共有したり情報を共有したりすることができる。また、考えに自信のない児童やうまく考えをまとめられない児童の考えについても取り上げることができ、それぞれの考え同士をつないで補完し合い、個の考えに反映することができる。配

慮が必要な児童も友達の考えを参考にして自分の考えをもち、授業に参加しやすくなるを考える。このことにより、自分の考えを発言することに自信をもたせ、主体的な学びを促したい。

個での調べ学習と児童同士の交流を促す働きかけによってまとめられた自分の考えを発表させる。その考えを共通する内容ごとに意図的に板書し、出された考えを分類・整理する。そうすることにより、児童にとらえさせたい視点が明確になり、

④ 個別に配慮が必要な児童に、机間巡視でその児童に応じた指導をする。

本学級には、個別に配慮が必要な児童が5名いる。学習意欲の面、資料を読み取ったり調べたりする技能面、課題に対して自分の考えをもつ・書くという面で個別に配慮が必要である。それらの児童に対して、次のような手立てをとり指導を行っていききたい。

- ・視覚的な資料や児童の認識のずれを生じさせる資料提示、児童の思考を深める資料提示を行い、学習に対して興味・関心をもたせる。
- ・学習課題について調べたり考えたりする際、どの資料を調べ、どのように読み取ればよいか分からない場合、教科書や資料等の該当ページや部分を明確にさせる。
- ・自分の考えをなかなかもつことができなかつたり、書くことができなかつたりした場合、「(2)指導の構想③」にある児童同士の交流を促す働きかけを行ったり、考える視点を与えたりする。
- ・児童がよいつぶやきや発言、考えをしたときには、全体の場で取り上げたり、個別に賞賛の言葉掛けを行ったりする。

個別に配慮が必要な児童にこれらの指導を机間巡視を中心に行っていく。

5 単元の指導計画（全13時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評価				
		関	思	技	知	評価規準
1	○自動車の部品について調べ、どこにどんな部品が使われているか、調べることができる。 ・実際に自動車を見たり、資料を調べたりして部品の用途に着目して分類し、どんな部品が使われているか調べる。 ・自動車の部品数や生産時間などから、自動車がどのように生産されているか予想する。	○		○		・自動車に使われている部品を調べたり、部品を用途に着目して分類したりしている。
2 3	○自動車ができるまでの工程を調べ、自動車工場働く人々の工夫や努力が分かる。 ・教科書や資料集、Webサイトなどから自動車づくりの作業工程を調べる。 ・ロボットがしている作業、人がしている作業について調べる。	○			○	・自動車の生産工程について意欲的に調べ、自動車づくりがラインの工夫や分業の仕組みなどによって、効率的に進められていることを理解している。
4	○自動車工場の立地場所や航空写真を調べ、工場の立地条件について考えることができる。 ・自動車工場の立地場所について、航空写真や地図、工場の配置図を比較したり関連付けたりしながら考える。 ・福岡県苅田町に自動車工場が建てられた理由を考える。		○			・資料から読み取ったことを基に、自動車工場の立地条件を考えている。
5	○自動車工場では、働く人が働きやすい仕組みを整えるとともに環境にも配慮しながら自動車を生産していることを資料から読み取る。 ・写真などの資料から、働く人が働きやすくなるための工場の取組の工夫を調べる。 (人にやさしい) ・写真などの資料から、環境に配慮したり、地			○		・工場の人たちが働きやすくなるための工夫や環境を守るための取組の工夫について、写真や資料を関連付けて読み取っている。

	域の環境を美しく保ったりするための工場の取組の工夫について調べる。(環境にやさしい)				
6	<p>○自動車のシートをつくる関連工場について調べ、関連工場の生産や出荷における工夫や努力を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シート作りの生産工程を調べる。 ・シート工場の立地場所を調べ、自動車工場の近くに立地している理由を考える。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・関連工場では、効率よく生産・出荷するため、また品質を保つために、様々な工夫や努力をしていることについて考え、表現している。
7	<p>○自動車づくりを支える関連工場の働きや自動車工場と関連工場との結び付きを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連工場が注文どおりに部品を納めるための仕組みや関連工場働く人々の工夫・努力について調べる。 ・関連工場の生産休止が自動車生産に与える影響を考える。(中越沖地震で被災した柏崎の関連工場の例)事例を基に関連工場と自動車工場との結び付きについて考える。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・自動車づくりを支える関連工場のはたらきや、関連工場と自動車工場との結び付きについて考え、表現している。
8	<p>○工場で生産された自動車の運搬・輸送について関心をもち、運搬船やキャリアカーに積み込む仕事の様子や働く人々の工夫や努力を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場から販売店まで、自動車がどのようにして輸送されているのかを予想する。 ・働く人の話や写真などから、運搬船への新車の積込の様子やキャリアカーでの運搬の仕事の様子を調べ、作業上の工夫や努力について考える。 	○			<p>○自動車の運搬・輸送に関わる仕事の様子について調べたことを基に、新車を大切に扱い届ける人々の工夫や努力について考え、表現している。</p>
9	<p>○自動車の輸送の経路や方法を調べ、それぞれの輸送手段の長所を生かした物流の仕組みをとらえ、その仕組みが工業生産を支えていることに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図や写真などの資料を基に、自動車を運ぶ経路や方法を調べ、輸送手段ごとの利点を考える。 ・輸送の経路や方法は輸送費とも関係があることや自動車の値段に含まれる費用を考える。 ・輸送手段ごとの長所や短所をまとめる。 	○			<p>○輸送手段ごとの長所や短所について、様々な視点から考え、表現している。</p>
10	<p>○「だれでも使いやすい」「安全・安心」「快適に運転できる」「環境にやさしい」などの視点で、これからの自動車づくりで大切にされていることについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料(海外でのガソリン車販売禁止を伝える新聞記事、日本車のイギリスへの輸出台数の変化のグラフ、自動車に乗る人の自動車買い換えに関わる意識調査の結果)を基に、自動車に乗る人のニーズを考え、学習課題を設定する。 ・教科書や資料集から、これからの自動車づくりで大切にされていることについて調べ、発表された考えを基に「誰でも使いやすい自動車」「安全・安心な自動車」「快適に運転できる自動車」という視点で分類・整理する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・これからの自動車づくりで大切にされていることについて、詳しく調べてみたいこととその理由を考え、表現している

11	○自動車会社では、「誰でも使いやすい」「人にやさしい」「安全・安心」「快適に運転できる」「環境やさしい」自動車づくりに取り組んでいることを理解する。(前時を受けての調べ学習。自動車会社の発行の子ども向けパンフレットも活用する。)			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車に乗る人の思いや願いの実現を目指して自動車の開発を行っている人々の、工夫や努力について理解する。 ・これからの自動車づくりには、快適性、利便性だけでなく地球環境にも配慮した自動車づくりが行われていることを調べてまとめている。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・乗る人の願いが、自動車づくりにどのように生かされているのか具体的に調べ、消費者のニーズを反映した自動車づくりが進められていることを調べる。 ・さまざまなエコカーについて資料を読み取って調べ、環境にやさしい自動車づくりとはどのようなものなのか調べる。 ・自動車づくりを「消費者」と「生産者」の視点、「社会的な要請」という視点から理解する。 					
13	○これまで調べてきたことを整理し、自分が考える「未来の自動車」をパンフレットにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・消費者のニーズや生産者の研究開発という視点から「未来の自動車」を考える。 ・特徴や機能などを絵や図、文章などにまとめる。 	○		○		<ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる事実や既習事項、未来の車に対する自分の視点を明確にして意欲的に考え、表現している。

6 本時の計画（10時間目／全13時間）

(1) 本時のねらい

これからの自動車づくりについて、資料を調べたり話し合ったりすることを通して、「だれでも使いやすい」「安心・安全」「快適」「環境にやさしい」など、消費者のニーズを反映した自動車づくりが進められていることをとらえることができる。

(2) 本時の構想

児童は、前時までに自動車の生産方法と自動車づくりに携わる人々の工夫や努力、自動車工場と関連工場との関係、自動車の運搬・輸送について学習してきた。しかし、安全性に配慮した自動車や福祉車両、ハイブリッド車などについてある程度知ってはいるが、消費者のニーズを取り入れ、安全で人や環境に優しく快適な自動車づくりが求められていることについてはとらえていない。そのような児童に、これからの自動づくりには、どのようなことが求められているのかをとらえさせたい。そこで、本時では、以下の4つの手立てを講じる。

安全で人や環境に優しく快適な自動車の詳細や具体例を調べる活動は次時以降に行う。本時は、その視点を全体で共有する授業としての位置付けである。

【手立て1】

新聞記事の見出しの「○○車」販売禁止の「○○」に入る言葉を予想させ、これからの自動車づくりについて、興味・関心をもたせる。(資料1 新潟日報 2017年7月27日の記事を授業者が一部加工)

児童に新聞記事の見出しの「○○車」販売禁止の「○○」に入る言葉を予想させる。多くの児童が「ガソリン車販売禁止」という見出しに意外性を感じるであろう。なぜなら、自動車の燃料はガソリンだという知識をもっているからである。この資料提示により、児童がもつであろうイメージとのずれや意外性を生じさせる。児童は既存の知識や自分のイメージとのずれから、これからの自動車づくりについて興味・関心をもつことが期待できる。また、小見出しの「2040年からイギリスで」ということを確認した上で、日本の自動車づくりと関係あるかどうかを問い、「日本の自動車のイギリスへの輸出台数の変化」のグラフ(資料2 日本自動車工業会の調査をもとに授業者が作成)を提示し、日本がイギリスに自動車を輸出している事実から、日本の自動車づくりとの関連性をとらえさせる。ここでは、「環境への配慮」という視点をおさえる。児童は、昨年度、総合的な学習の時間で、環境問題について学んだ経験がある。その学習経験を生かして、「環境への配慮」という視点を手立て2の前に確認しておく。

【手立て2】

「自動車購入時の重視度にかかわる調査結果（資料3）」を提示し、消費者のニーズが「環境への配慮」以外にもあることを基に学習課題を設定する。

これからの自動車づくりについて「環境への配慮」という視点から興味・関心をもった児童に、「自動車購入時の重視度にかかわる調査結果（資料3 日本自動車工業会「市場動向調査」をもとに授業者が作成。2015年調査）を提示する。そして、「自動車を買換えるときに排出ガス（CO₂）が少ないということ重視しますか。」という質問に対する答えの割合を問い、その割合が42%という事実を確認する。その後、「環境への配慮」も含め、「これからの自動車作りには、どのようなことが大切にされているか。」という学習課題を設定する。その際、「環境への配慮」も重視しているが、自動車に乗る人は、他にも大切にしていることがあるということを確認する。

また、「自動車購入時の重視度にかかわる調査結果（資料3）」を提示して児童に考えさせることは、自動車生産に関わる学習と自分の生活とのかかわりを意識させる上で重要だと考える。なぜなら、「ほとんどの児童がそう遠くない将来、早ければ7～8年後には自動車運転免許を取得し運転をする。」「保護者の自動車を買換えるを経験している。または今後経験する」ということが予想されるからである。

【手立て3】

これからの自動車づくりで大切にされていることについて、予想させた後、教科書や資料集から調べさせ、児童から出された考えを意図的に板書して分類・整理し、「だれでも使いやすい」「安全・安心」「快適に運転できる」「環境にやさしい」などの視点でとらえさせる。

学習課題設定後、これからの自動車づくりで大切にされていることについて予想させる。児童は、既有的知識や生活経験、前時までの学習を手がかりに、安全性や利便性、スタイルなどを予想するだろう。予想させることで、実際はどのようなのだろうという児童の問題意識を高め、調べ学習に見通しをもたせる。その後、教科書や資料集から学習課題について調べる活動に取り組みさせることで、どの児童も見通しをもって学習課題について調べることができると思う。調べ学習では、具体的な事例を中心に調べるよう確認する。調べ学習や小集団での交流を基に児童から出された考えを全体の場で、意図的に板書し、「だれでも使いやすい」「安全・安心」「快適に運転できる」「環境にやさしい」などの視点で分類・整理し、学習のまとめにつなげていく。

本時では、「だれでも使いやすい（人にやさしいという表現も認める）」「安全・安心」「快適に運転できる」「環境にやさしい」など、これからの自動車づくりで大切にされていることについての視点を獲得する時間としての位置付けであるため、個々の装置や機能等にかかわる詳細については、次時以降調べるものとする。授業の導入部分で確認する「環境への配慮」という視点も学習のまとめに含み、振り返りでの「環境への配慮」についての考えも認める。また、消費者のニーズという視点から「スタイル・デザイン」に分類される考えが出された場合、「環境への配慮」と同様に扱うものとする。

【手立て4】

個別に配慮が必要な児童に、机間巡視でその児童に応じた指導をする。

①学習意欲の面、②資料を読み取ったり調べたりする技能面、③課題に対して自分の考えをもつ・書くという面で個別に配慮が必要な5名の児童に対して、机間巡視で次のような手立てをとり指導を行う。

- ・②、③の面で配慮が必要なA児には、個での調べ学習の際に教科書の該当ページや部分を一緒に確認し、振り返りで自分の考えを書く際には考える視点を与える。
- ・①の面で配慮が必要なB児には、本時で提示した資料からどのように考えたかを確認し、共感的に受け止め、考えのよさを認める。
- ・③の面で配慮が必要なC児には、グループでの交流の場で参考になった友達の考えを確認する。
- ・①、③の面で配慮が必要なD児には、本時で提示した資料のどこに疑問や認識のずれを感じたかを確認する。また、学習課題について考えたり調べたりする視点や具体例を確認する。
- ・①、②、③の面で配慮が必要なE児には、机間巡視の際に、教科書の該当ページを示したり、ノートに書く内容を指示したりするなど、活動や作業の内容について具体的に確認する。また、グループでの交流の場で参考になった友達の考えを確認する。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■評価規準(観点/方法)・〇留意点
<p>1 新聞記事(資料1)を基に、諸外国での将来のガソリン車販売禁止というニュースについて、関心をもつ。(2分)</p>	<p>【手立て1】 T1 自動車に関するこんな新聞記事がありました。見てください。見出しの「〇〇車」の「〇〇」の部分には、何という言葉が入ると思いますか。 C1 えー、何だろう。 C2 何の車が販売禁止なんだろう。 T2 この中には、「ガソリン」という言葉が入りません。 C3 何で。車の燃料は、ガソリンなのに。 C4 車に乗れなくなるの。 T3 小見出しの隠れた部分には、こういう言葉が書いてあります。「40年から 英」。2040年からイギリスでという意味です。 C5 日本のことじゃないのか。 T4 なぜ、ガソリン車が販売禁止になるのでしょうか。 C6 環境に悪いからじゃない。 C7 車から出る排出ガス(CO2)が地球温暖化の原因と言われているから。 T5 そうですね。環境のことを考えてのイギリスの取組ですね。</p>	<p>○「新聞記事 ガソリン車、販売禁止へ新潟日報2017年7月27日(資料1)」を提示する。見出しの「ガソリン」の部分は隠して提示する。</p> <p>○新聞記事の内容が「環境への配慮」だということを確認する。</p>
<p>2 「環境への配慮」以外の消費者のニーズについて、問題意識をもつ。(3分)</p>	<p>【手立て2】 T6 イギリスのニュースなのですが、日本の自動車作りとは全く関係がないのでしょうか。 C8 今のところ日本ではガソリン車は販売しても大丈夫。 C9 でも、何か関係ありそう。 T7 これを見てください。(資料2提示) C10 イギリスに日本の車を輸出してるんだ。 C11 じゃあ、日本の自動車作りに関係してくる。これからは環境のことを考えた自動車が必要だ。 T8 日本でも環境のことを考えた自動車づくりが必要になりそうですね。 T9 日本で自動車に乗っている人に聞いたある調査で、「自動車を買換えるときに排出ガス(CO2)が少なく環境によいということを重視しますか。」という質問がありました。何%くらいの方が、重視すると答えたと思いますか。 C12 80%くらいかな。 T10 実際は、42%です。 C13 思ったより少ない。 C14 予想より多かった。</p>	<p>○「日本の自動車のイギリスへの輸出台数の変化(資料2)」のグラフを提示する。</p> <p>○「自動車購入時の重視度にかかわる調査結果(資料3)」を提示する。※日本自動車工業会の調査を基に授業者が作成(2015年調査)</p>
<p>3 学習課題を設定する。(2分)</p>	<p>T11 自動車に乗る人は、環境のことも考えているけれど、他のことも大切に考えているようですね。今日は、これからの日本の自動車づくりについて考えていきましょう。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><学習課題> これからの自動車づくりには、どのようなことが大切にされているのだろう。</p> </div>	<p>○「環境への配慮」も含め、これからの自動車作り、消費者のニーズという視点で学習課題を設定する。</p>
<p>4 学習課題について予想する。(3分)</p>	<p>T12 学習課題について予想してみましよう。 C15 衝突しそうなとき、自動でブレーキがかかる車。 C16 便利な車かな。 C17 見た目を重視する人もいるんじゃないかな。</p>	

<p>5 これからの自動車づくりで大切にされることについて調べる。(10分)</p>	<p>【手立て4】 T 13 実際は、どうなのでしょう。教科書や資料集から調べてみましょう。 C 18 車いすの写真がある。車いすの人でも乗れるのかな。 C 19 安全に関係することがないか調べてみよう。</p>	<p>○具体的な例を調べよう指示する。 ○個で調べた後、制限時間を設け、グループで話し合うことを指示する。 ○配慮が必要な児童には個別に机間巡視で【手立て4】を基に指導する。</p>
<p>6 調べて分かったことを発表する。(15分)</p>	<p>【手立て3】【手立て4】 <だれでも使いやすい自動車> C 20 体に障がいのある人でも運転できる手動運転装置が付いている車がある。 C 21 車いすの人でも乗り降りできる車がある。 C 22 お年寄りやけがをした人でも乗り降りしやすい車がある。 <安全・安心な自動車> C 23 自動で速度を抑えてくれる仕組みを取り入れている。 C 24 エアバッグやペダルを踏み間違えても急な発進をおさえてくれるしくみがある。 <快適に運転できる自動車> C 25 近くへ出かけるときに気軽に乗れる小型の自動車が開発されている。 C 26 駐車しやすいように自動車を上から見ているような映像を映し出す装置がある。 <環境にやさしい自動車> C 27 ガソリンを使わない電気自動車がある。プラグインハイブリッドカーもある。 C 28 リサイクルしやすい素材でつくられた自動車がある。 C 29 水素と酸素で電気をつくって走る燃料電池車もある。</p>	<p>○出された考えを、「だれでも使いやすい」「安全・安心」「快適」「環境にやさしい」などに分類・整理する。 ○一人一人の考えを位置付けるため、自分がどの考えかを挙手させる。</p>
<p>7 学習のまとめをする。(3分)</p>	<p>T 14 学習のまとめをしましょう。これからの自動車づくりには、どのようなことが大切にされていたでしょう。</p>	<p>○児童の言葉を拾いながら学習のまとめをする。</p>
<p><学習のまとめ> これからの自動車づくりは ①だれでも使いやすい ②安全・安心 ③快適に運転できる ④環境にやさしい ということが大切にされている。</p>		
<p>8 振り返りをする。(7分)</p>	<p>T 15 今日の学習の振り返りをしましょう。これから詳しく調べてみたい①～④の自動車づくりの視点とその理由を書きましょう。 C 30 ぼくが詳しく調べてみたいことは、だれでも使いやすい自動車です。理由は、車いすの人でも乗り降りしたり運転したりできる装置は、どうなっているか知りたいからです。 C 31 わたしがくわしく調べてみたいことは、安心・安全な自動車です。理由は、自動車に乗っていると交通事故にあう危険があるから、それを防ぐための仕組みにはどんなものがあるか知りたいからです。</p>	<p>■これからの自動車づくりで大切にされていることについて、調べてみたいこととその理由を考え、表現している。(思考・判断・表現、ノート記述)</p>

(4) 本時の評価

- ①評価方法：振り返りの記述で評価する。
- ②評価規準：これからの自動車づくりで大切にされていることについて、調べてみたいこととその理由を考え、表現している。【思考・判断・表現】
- ③判断基準：B評価→次の2点を満たす。
 - ・「だれでも使いやすい」「安全・安心」「快適に運転できる」「環境にやさしい」などの調べてみたい視点及びその理由についての記述がある。

【例】

- ・わたしがくわしく調べてみたいことは、安心・安全な自動車です。理由は、自動車に乗っていると交通事故にあう危険があるから、それを防ぐためのしくみにはどんなものがあるか知りたいからです。

7 参考文献

- ・「学習指導要領解説 社会編」文部科学省
- ・「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程センター 2011年
- ・「小学社会5上」教師用指導書 研究編（教育出版）
- ・NHK for school ホームページ
- ・一般社団法人 日本自動車工業会ホームページ
- ・「乗用車市場動向調査」（一般社団法人 日本自動車工業会 2016年3月）
- ・トヨタ自動車・本田技研工業・日産自動車・富士重工業ホームページ
- ・経済産業省ホームページ
- ・財務省ホームページ
- ・博報堂生活総合研究所ホームページ